

8/17-23 #3新しい復興のための神・人の生活「神の心の願いは、「イエスにあるあの実際」、すなわち四福音書に記録されているイエスの神・人の生活の実際の状態が、キリストのからだの多くの肢体の中で、実際の霊によって複製されて、キリストのからだの実際、すなわち、神のエコノミーの最高峰となって、新しい復興を持つことです。エペソ4:20しかしあなたがたは、そのようにキリストを学んだのではありません。21もしあなたがたが真に彼に聞き、そして彼の中で、イエスにあるあの実際にしたがって教えられているのであれば、**A**四福音書は、神が願っている生活の模範、すなわち神を満足させ、神の定められた御旨を成就することができる生活の鋳型を見せています。イエスは、神の中で、神と共に、神のためにすべての事を行なう生活をしました。神はイエスの生活の中におられ、イエスは神と一でした。これが「イエスにあるあの実際」が意味することです。イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶとは、キリストの模範の中へと鋳込まれること、すなわち、キリストのかたちに同形化されることです。ローマ8:29御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定められたからです。それは、御子が多く兄弟たちの間で長子となるためです。**B**私たちが主によって成就されつつあるのは、神・人たちとなって、第一の神・人であるキリストの原型にしたがって、私たちの天然の命を否むことによって、神聖な命を生きるためです。**1**彼は彼の地上の生活の中で、四福音書で啓示されているように、一つの模範を設立しました。次に彼は十字架につけられ復活して、命を与える霊と成りました。それは彼が私たちの中へと入って、私たちの命となるためでした。私たちは彼の模範にしたがって彼から学びます。それは私たちの天然の命によってではなく、復活における私たちの命としての彼によってです。**2**私たちのクリスチャン生活は、キリストの中にある生活であり、また私たちの中のキリストの生活です。私たちは鋳型としてのキリストの中におり、彼は私たちの命として私たちの中におられます。このようにして、私たちはイエスにあるあの実際にしたがって、キリストを学びます。この実際が、キリストのからだの実際です。**C**私たちは主を愛し、主と接触し、主に祈るとき、福音書で記述されている鋳型、形、模範にしたがって、自動的に彼を生きます。このようにして、私たちはこの鋳型のかたちに形成され、同形化されます。これがキリストを学ぶことの意味するものです。**D**私たちはミングリングされた霊の中で生きるとき、実際の霊によって、イエスにあるあの実際にしたがって、キリストを学んでいます。私たちは、私たちの原型としての彼から学びます。それは、彼の伝記が私たちの歴史となる

ためです。新しい人としてのキリストのからだの生活は、福音書において啓示されているイエスの生活と全く同じであるべきです。**E**神が主イエスを遣わして人と成らせた目的は、主イエスが神聖な命によって神・人の生活をするためでした。私たちは彼を食べるとき、彼のゆえに生きて、彼と全く同じである宇宙的な大いなる人、すなわち、神聖な命によって神・人の生活をする人となります。ヨハネ6:57生ける父が私を遣わされ、私が父のゆえに生きているように、私を食べる者も、私のゆえに生きる。**II. 神を喜ばせる唯一の生活は、キリストが地上で生きた生活を繰り返す生活です。これは、全焼のささげ物としてのキリストの経験の中でキリストを経験する生活です**レビ1:9ただし、その内臓とその脚は水で洗わなければならない。そして祭司は、そのすべてを祭壇の上で、全焼のささげ物として焼いて煙を立ち上げなければならない。それは火によるささげ物であり、エホバを満足させるかおりである。ヨハネ8:29私を遣わされた方は、私と共におられる。彼は私を独りにしておかれない。私はいつも、彼に喜ばれる事を行なっているからである。**A**全焼のささげ物は、絶対に神のためであり、また神の満足のための生活をするキリストを予表します。全焼のささげ物はまた、神の民にそのような生活をさせることを可能にする命であるキリストを予表します。**B**「全焼のささげ物」と訳された言葉は、昇っていくものを示します。この昇っていくことはキリストを指しています。地から神に昇っていくことができる唯一のものは、キリストが生きた生活です。なぜなら彼は、神のために絶対的である生活をした唯一の方であるからです。**C**全焼のささげ物は、「エホバを満足させるかおり」でした。「満足させるかおり」と訳されたヘブル語は、文字どおりには、「安息や満足の香り」を意味します。満足させるかおりは、満足、平安、安息をもたらす香りです。そのような満足させるかおりは、神にとって享受です。**D**私たちの内側のキリストの命は、全焼のささげ物の実際です。これは従順の命、服従の命、命の木の原則にしたがって神に完全に依存する命です。**1**人が単独で、独立して、神から離れて、神の外側で行動することは罪です。神は、私たちがあらゆることご自身の指示にしたがって行動することを願っています。**2**「だれでも小さい子供のように神の王国を受け入れない者は、決してその中に入ることはない」。神は、私たちがいつも小さい子供のようになることを願っています。なぜなら、神は、私たちがいつも彼に依存することを願っているからです。自信は神に依存することの敵です。**E**正しい祈りを通して私たちの全焼のささげ物としてのキリストの上に手を置くことによって、私たちは彼に

結合され、彼と私たちは一になります。キリストが私たちの中で生きるとき、彼は彼が地上で生きた生活、すなわち全焼のささげ物の生活を、私たちの中で繰り返します。**F**そのような結合、そのような一体化の中で、私たちの弱さ、欠点、落ち度はすべて、彼によって担われます。**G**私たちは主に私たちを燃やしていただかなければなりません。それは、私たちが常にささげる全焼のささげ物となって他の人を燃やすためであり、また減少させられて灰となり、新エルサレムとなって、神を表現するためです。**1**灰は、減少させられて無となったキリストを表徴します。私たちは、減少させられて灰となったキリストと一であるので、私たちも減少させられて灰となります。すなわち、減少させられて無となり、ゼロとなります。**2**私たちはキリストと彼の死の中で一体化されればされるほど、自分が灰の堆積となっていることをますます認識するでしょう。私たちは灰となると、もはや天然の人ではありません。そうではなく、私たちは、十字架につけられ、終結させられ、焼かれた人です。**H**灰を祭壇の東側、日の出の方向に置くことは、復活を暗示しています。**1**全焼のささげ物としてのキリストにとって、灰は終わりではなく、始まりです。灰は、キリストが死に渡されたことを意味します。しかし、東は復活を表徴します。**2**私たちはキリストの中で減少させられて灰になればなるほど、ますます東側へと置かれます。私たちは東側において、太陽が昇ることと、私たちが復活の日の出を経験することを確認します。**I**最終的に、この灰は新エルサレムとなります。**1**キリストの死は、私たちを終わりへともたらし、私たちを減少させて灰とならせます。復活の中でこの灰は、神の建造のための尊い材料となります。**2**私たちは減少させられて灰となると、三一の神の造り変えの中へともたらされて、新エルサレムを建造するための尊い材料となります。**III. 神の新約の務めを遂行することにおいて、全焼のささげ物の実際としての主イエスは、自分からは何も行なわず、自分の働きを行なわず、自分の言葉を語らず、自分の意志によって何も行なわず、自分の栄光を求めませんでした。彼は決して失望しませんでした。なぜなら、彼はただ神に満足していたからです。ヨハネ5:19 イエスは彼らに答えて言われた、「まことに、まことに、私はあなたがたに言う。子は、父が行なわれることを見ないで、自分から何もすることができない。父が行なわれることは何であれ、子も同じように行なう」。****A**主の生活は彼の働き、彼の行動、彼の務めでした。彼の働きは彼の生活であり、彼の行動は彼の存在でした。彼にとって、彼の生活、彼の働き、彼の行動、彼の務めの間には何の違いもありませんでした。主イエスは彼の

の務めを生きました。**B**主イエスは祈りの人でした。彼は、しばしば山へ行ったり、ひそかな場所に退いたりして、祈りました。**C**彼は五千人を養う奇跡の後、弟子たちを強いて彼から去らせました。それは彼が御父にひそかに祈るさらに多くの時間を持つためでした。**1**天の王は、御父の愛する御子として、人の立場に立ち、天におられる彼の御父にひそかに祈る必要がありました。それは、彼が御父と一になり、彼が天の王国の設立のために地上で行なわれるどんな事においても、御父と共にいるためでした。**2**彼がこれを行なったのは、荒野ではなく、山の上であり、すべての人から、さらには彼の弟子たちから離れて、ただ一人、御父と接触しました。**D**彼は祈りの人であり、神と一であったので、決して独りではありませんでした。なぜなら、御父が彼と共におられたからです。あらゆる瞬間、彼は御父の御顔を見ていました。**IV. 私たちが神ご自身である愛の中に住むとき、愛は「私たちの中で全うされました。それは、私たちが裁きの日に大胆さを持つためです。なぜなら、彼がそうであるように、私たちもこの世でそうであるからです」**(ヨハネ4:17)。全焼のささげ物の実際としてのキリストはこの世で、愛としての神を生かし出す生活をしました。そして彼が今や私たちの命であるのは、私たちがこの世で同じ愛を生かし出す生活をして、彼と同じになるためです。**A**私たちの霊の中の命の霊の法則は、キリストの律法であり、愛の律法(愛の法則)でもあります。愛の律法は、命の霊の法則によって実体化されなければなりません。それは、私たちが互いに重荷を負い合うことができるためです。しかし、もし私たちが高ぶりで満たされているなら、他の人の重荷を負うことができないでしょう。なぜなら、私たちは自分が何者でもないのに自分をひとかどの者と考えていることによって、自分を欺いているからです。**B**愛の法則が私たちの内側で発動するとき、私たちは自動的にまた自然に牧する者となって、私たちの父なる神の愛し赦す心と、私たちの救い主キリストの牧養し捜し求める霊を持ちます。**C**愛の法則が私たちの内側で発動するとき、主にある私たちの労苦は愛の労苦となります。私たちはその中で「弱い人たちを支え」、「弱い者を支え」ます。「弱い人たち」は、彼らの霊、魂、体において弱い人たち、あるいは信仰の弱い人たちを指しています。**D**主は復活した後、ペテロを牧養して、ペテロに彼の小羊を養い、彼の羊を牧養するよう委託しました。これは、使徒の務めとキリストの天の務めを合併して、神の羊の群れ、すなわち、召会を顧みることです。この事の結果、キリストのからだは建造され、新エルサレムにおいて究極的に完成して、神の永遠のエコノミーを成し遂げます。